

ご出産を  
無痛分娩でと  
お考えの方へ

## はじめに

新しい命とともに出産に向けて体も変化し、いつか分娩時の陣痛に対して不安を抱くことがあるかもしれません。

当院では無痛分娩という陣痛の痛みを和らげることのできる、分娩方法も、ご提供しております。

妊娠・出産というご家族にとって大きなイベントに、産科・小児科スタッフとともに、麻酔科スタッフもお手伝いさせていただければ幸いです。

## 1. お産の時の痛みって

分娩第1期（陣痛開始から子宮口全部開くまで）  
子宮の収縮や子宮の出口が引き伸ばされる刺激は  
子宮周辺にある神経を介して 脊髄に伝わります。  
その刺激が脳に伝わり痛みとして感じます。

: 開口期(内蔵痛)

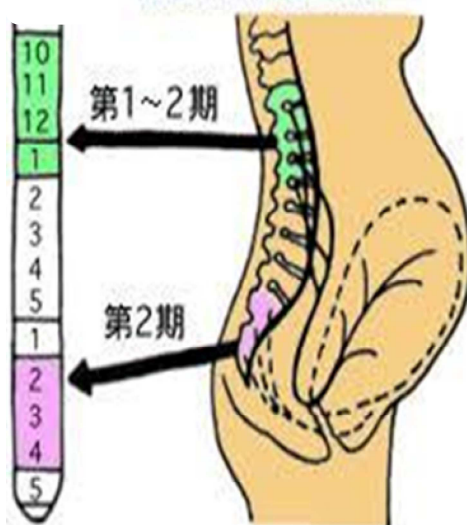


分娩第2期（子宮口全開大から赤ちゃんが生まれるまで）  
膣と外陰部が進展し神経から脊髄、脳へと伝わり痛みを感じます

: 娩出期(体性痛)

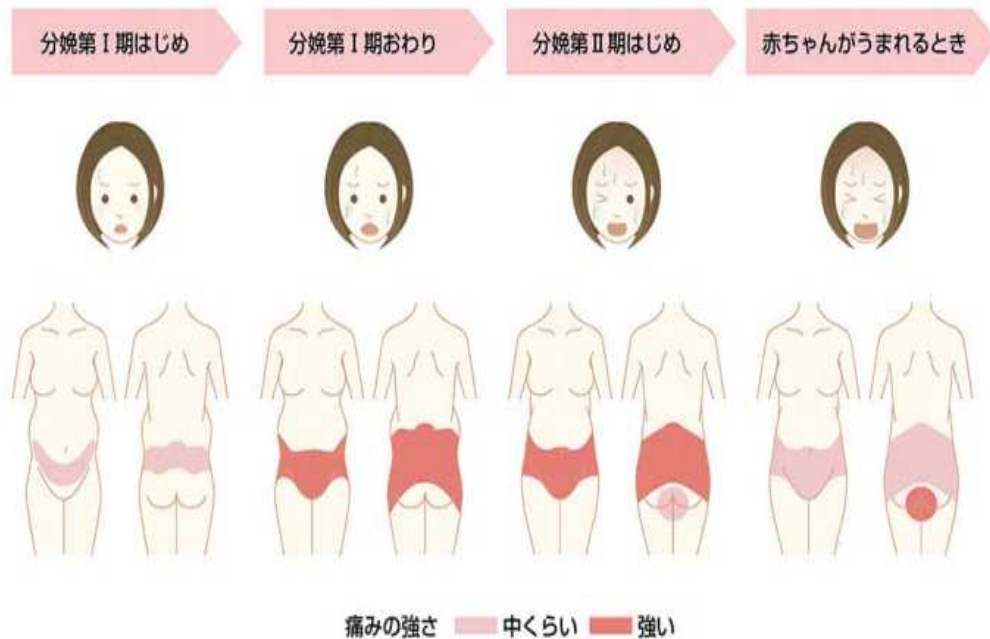


: 産痛の神経支配



## 陣痛の場所と強さ

お産の進行に伴い痛みの場所や程度が徐々に変わってきます



©日本産科麻酔学会

### \* 分婏第1期→

おなかの下の方から腰にかけて痛みを感じます

### \* 分婏第1期の終わりころ→

おへその下から腰全体、そして外陰部にかけてとても強く痛むようになります

### \* 分婏第2期→

外陰部から肛門の周りで特に強くなってきます

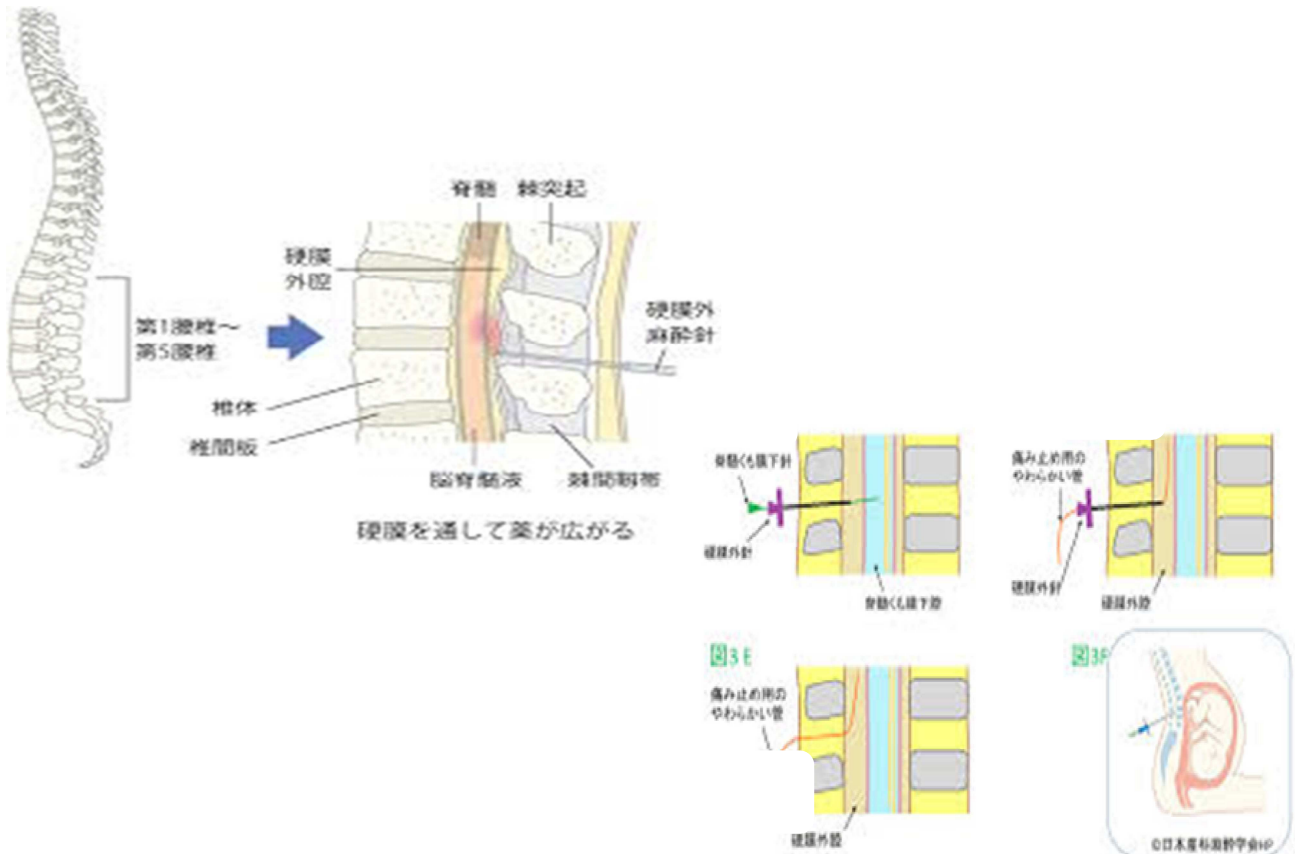
このようにお産の時の痛みは、進行状況により、強さも感じる場所も、変化していきます。

当院では基本的には硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を行っています。感覚を全くなくすのではなく、耐えられる陣痛になるようにコントロールします。

赤ちゃんとお母さん両方の様子を見ながら麻酔を調整します。

## 2. 硬膜外麻酔の「硬膜外」ってどこ？

脊髄は硬膜という膜に囲まれた袋に入っています。その外側の空間を硬膜外腔といいます。



硬膜外麻酔は、プラスチック製の細くて柔らかいカテーテル（チューブ）を背中から硬膜外腔まで入れ、麻薬を少しずつ注入して痛みを和らげる方法です。

硬膜外腔に入れたカテーテルから薬が入り、硬膜からゆっくり脊髄に伝わることで陣痛の痛みがやわらぎます。

赤ちゃんが生まれるまでの間、妊婦さんと赤ちゃんの両方の様子を注意深くモニターしながら薬を投与します。

### 3. 硬膜外麻酔の実際

無痛分娩は LDR で行います。

#### 準備として

- ①麻酔中の水分補給や薬剤を使用する場合のため、また、開始後体調の変化がおこった場合に、すぐに対応できるよう点滴のルートを確認させていただきます。
- ②麻酔のための術着に着替えて頂きます。
- ③安静に休むことで起こる血栓防止のために弾性ストッキングをはいていただきます。
- ④コンタクトをはずし、眼鏡を使用しましょう。
- ⑤ジェルネイルをはずしておきます。
- ⑥心電図血圧モニターをつけます。



#### 麻酔の実際

硬膜外カテーテルを背中の中の腰のあたりから挿入します。横向きに寝た姿勢で背中を丸めていただき、背骨の間が広くあくようにします。そうすることで背骨の間からカテーテルを入れやすくします。

挿入されたカテーテルは背中にテープで貼り付け、先端を肩口から出します。カテーテル挿入後仰向けに寝ることも可能です。カテーテルを入れるときは、滅菌された物品を使用し、妊婦さんの背中を広く消毒して細菌などが体内に入らないようにしています。そのためカテーテル挿入時にご家族の同席をご遠慮いただいています。

①まずベッドの上で横になり、背中を丸くします。そして腰のあたりに

痛み止めの注射をします。



②針を刺して細い管（カテーテル）を入れます



③カテーテルが背中に入れば針を抜きます。



④そのカテーテルを使い無痛分娩を始めていきます。



⑤カテーテルから薬を注入する機械には、持続的に一定量薬剤が入るようにポンプを使用します。そのほかに、ご自身で押しいただくボタンがあります。それを押しと追加の薬が注入されます。ボタンは何回押ししても安全な量までしか入らないように機械がコントロールしていますので、痛いときは遠慮なく押ししてください。

麻酔はボタンを押した直後ではなく数分から数十分後に効いてきます。少し痛みが強くなるのを感じたら早めに押しいただいで構いません。



- ⑥出産後、一通りの産科的な処置が終わるまで麻酔を続け、終了後カテーテルを抜きます。数時間後にはご自身で歩行することも可能です。また授乳への影響はなく、普通分娩時と同様に、出産後いつでも授乳することができます。

#### 4. 無痛分娩を始める時期

基本的には陣痛が自然に発来してから入院して頂きます。そして妊婦さんが希望したタイミングで麻酔を開始することができるように、産科・麻酔科スタッフが連携して対応しています。

出産前に無痛分娩を希望していたとしても、妊婦さんのご希望で結果的に麻酔をしないで出産するという選択もできます。

ただ、出産直前で無痛分娩を希望された場合や急激にお産が進行した場合は、陣痛の痛みが強い時期であるため、麻酔のカテーテルがスムーズに入らないことがあり、結果として出産までに麻酔をすることが間に合わない場合もあります。

#### 5. 無痛分娩中の過ごし方

- ①麻酔を始めてからは基本的には食事はとれません。

水分は飲むことができます

麻酔中に限らず、陣痛がきている妊婦さんの胃腸の動きはにぶくなっているため、嘔吐した時の問題点から食事は控えた方がよいとされています。

無痛分娩中は点滴により水分補給をしています。

- ②基本的にはベッド上で過ごしていただけます。

麻酔中は下半身の感覚や動きが鈍くなるので、急に立ち上がったたりすると転倒する危険があるためです。

トイレは必要に応じて管を入れて（導尿）尿を排出させます。導尿は麻酔が効いているので痛みはありません。

- ③胎児心拍陣痛モニターは麻酔開始後から赤ちゃんが生まれるまで付けていただけます。



- ④麻酔開始直後は頻回、その後も基本的には 15-30 分おきに妊婦さんの血圧を測らせていただきます。
- ⑤麻酔中ずっと同じ姿勢にならないようにスタッフが定期的に体の向きを変え、お手伝いをします。麻酔中は下半身の感覚がにぶくなっているため、長時間同じ姿勢でいることによる神経障害や皮膚トラブルを予防するためです。

## 6. 無痛分娩のメリット

- ①陣痛の痛みが少ないことからリラックスして分娩することが可能になること、
- ②妊婦さんの体力の消耗を最小限にすることができること、
- ③産道の柔軟性が弱い（年齢が比較的高い方など）場合はお産の進行を促進する可能性があること、
- ④お産の経過中に帝王切開が必要になった際にも、無痛分娩の麻酔薬を変更することにより、迅速に帝王切開の麻酔にできることです。



## 7. 起こりうる問題点

医療行為には避けることができない副作用や合併症が起こりえます。当院ではできるだけ起こらないようスタッフ一同協力して診療につとめ、またこのようなことが起きた場合も適切に迅速に対応できるように準備しております。

### 血圧低下

麻酔の影響で妊婦さんの血圧が一時的に下がることがあります。点滴や薬を適切に使い対応することで妊婦さんや赤ちゃんに問題がないようにしていきます。

### 穿刺部痛

硬膜外麻酔カテーテルの入っていた部分の痛みを感じることがあります。一時的なものが多くですが長く続く場合はお知らせください。

### 搔痒 かゆみ

麻酔薬の影響で妊婦さんの体にかゆみを生じることがあります。通常かゆみの程度は軽いですが、つらい場合は薬剤などで対応します。

### 発熱

硬膜外麻酔をした妊婦さんが時に発熱（38℃以上）する場合があります。発熱は分娩後自然に解熱することがほとんどですが、発熱の原因を調べる為に採血などの検査が必要となる場合があります。

### 分娩遷延

麻酔の影響によりお産の進行がゆっくりとなり、子宮収縮薬による補助が必要になることがあります。

出産時に吸引分娩となる場合があります。

### 胎児心拍数の低下

無痛分娩中は、麻酔薬そのものの影響や血圧低下により赤ちゃんの心拍数がさがることがあります。

迅速に対応する必要があるため、頻回の血圧測定や、胎児モニターを常時つけて、モニタリングしています。

## 8. 麻酔科外来の受診

無痛分娩を希望されている場合は、出産前に麻酔科外来の受診（妊娠 36 週までに）が必要となります。麻酔科外来では、無痛分娩が安全に行うことができるかどうかの確認や服薬指導、麻酔についての追加説明を行います。

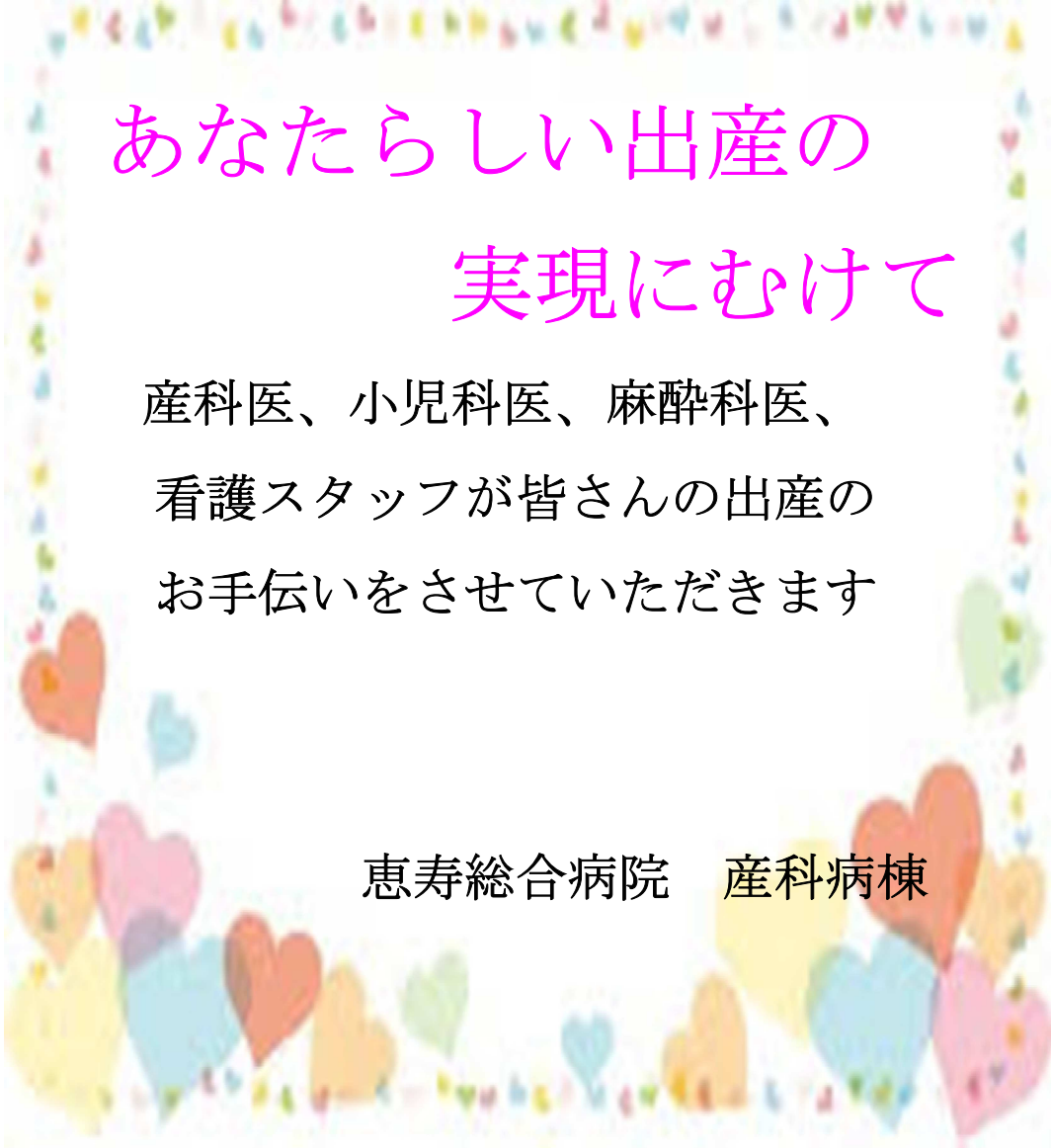
血がとまりにくい方、脳や背骨に異常のある方、硬膜外カテーテルが入る部分の皮膚に感染のある方などは硬膜外麻酔が行えない場合があります。無痛分娩の手順やメリットデメリットも十分な説明を聞いていただき、安心して分娩日を迎えられるようお手伝いしていきます。麻酔科受診は自費で 2,820 円必要となります。



## 9. 費用

分娩費用に加算されます

時間区分/麻酔時間	麻酔開始から 3 時間までの出 産	麻酔開始から 4-6 時間までの出 産	麻酔開始から 7 時間以上の出産
平日	¥86,000	¥102,000	¥126,000
時間外	¥103,000	¥126,000	¥159,000
休日深夜	¥120,000	¥149,000	¥192,000



# あなたらしい出産の 実現にむけて

産科医、小児科医、麻酔科医、  
看護スタッフが皆さんの出産の  
お手伝いをさせていただきます

恵寿総合病院 産科病棟